

15～16日インドネシア・バリ島でG20(Group of 20)が開催された。

G7, G8, G20
ILLUSTRATION OF A HAND-DRAWN NATIONAL FLAG

メンバーは、G7メンバーとEUの他、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコから構成、今回はスペイン、オランダなどを含む10カ国と世界銀行、世界保健機関（WHO）など10の国際機関が招待された。

15～16日インドネシア・バリ島でG20(Group of 20)が開催された。

この会議は1997年アジアの通貨危機を受けて1999年に誕生、世界共通の問題である気候・エネルギー、デジタル、テロ、移民など幅広い議題に対応するために開かれている。

2022年では、「食料・エネルギー安全保障」、「国際保健」「デジタル・トランクスフォーメーション」の3つのセッションを開催した。



国内では大変な盛り上がりを見せるワールドカップだが、開催前には、EUの欧州議会が開催国カタールの人権状況やFIFAの汚職疑惑を非難する決議を賛成多数で可決した。

決議では大会準備に携わった移民労働者の過酷な労働状況を批判し、死傷した労働者への補償を一層進めるよう求めた。W杯に参加するべきではないと考える国もあらわれた。

カタールの総人口260万人のうち230万人

その後格下のコスタリカに0…1で敗戦するが、決勝トーナメント進出がかかった最後の3戦目で優勝候補スペインに再び2…1の逆転勝利を納めグループ首位で決勝トーナメント進出を決めた。

長いこと日本サッカーはメンタルが弱いと言われてきたが優勝候補の強豪2チームに逆転勝利することはかなりの強いメンタルでなくては成し得ない結果だ。

観客はマスクをせず密集した中でサポーターは大声で応援。その姿に中国国民党は自国のゼロコロナ対策に反発する動きを加速、異例の共産党へのデモが各地で勃発、国民が白い紙を掲げて無言の抗議が激化していると通信社は報じている。

21日サッカーW杯がカタールで開幕された。日本はグループEの初戦で優勝候補ドイツと対戦。

1点先制されるも2点を取り返して、2…1の逆転勝利した。このジャイアントキリングは、1999年ドーハの悲劇になぞらえドーハの歓喜と呼ばれ日本中が喜びに包まれた。



中国のゼロコロナ対策は変わらず続いている。その対策が弊害となり消防消火活動が遅れるなど市民生活への問題が表面化、そのような中、W杯の映像は世界をめぐる。カタールのサッカースタジアムの観客はマスクをせず密に中国国民党は自国のゼロコロナ対策に反発する動きを加速、異例の共産党へのデモが各地で勃発、国民が白い紙を掲げて無言の抗議が激化していると通信社は報じている。

本紙が皆さんのお手元に届く頃、日本チームはどこまで決勝トーナメントの駒を進めてワールドカップトロフィーに近づけるのだろうか。

中国のゼロコロナ対策は変わらず続いている。その対策が弊害となり消防消火活動が遅れるなど市民生活への問題が表面化、そのような中、W杯の映像は世界をめぐる。カタールのサッカースタジアムの観客はマスクをせず密に中国国民党は自国のゼロコロナ対策に反発する動きを加速、異例の共産党へのデモが各地で勃発、国民が白い紙を掲げて無言の抗議が激化していると通信社は報じている。

国際サッカー連盟（FIFA）の巨額汚職事件に、米国司法当局が捜査のメスを入れたのは、2015年のことだった。複数のFIFA副会長、ホンジュラスの元大統領、ガアテマラの憲法裁判所裁判官らが、組織的不正の罪などで次々と起訴され、賄賂など不正資金の総額は2億ドル、当時のレートで約245億円とされた。ゼップ・ブラツター氏が会長退陣に追い込まれ、FIFA幹部の顔ぶれは一新された。当局が発表した訴追資料などによると、被告らは20年以上にわたり、国際大会の放映権やマーケティング権を獲得する見返りとして、スポーツマーケティング会社などから繰り返し、多額の賄賂を受け取っていた。

2010年W杯の招致活動では、開催地に決まつた南アフリカの政府関係者から当時のFIFA A副会長へ、FIFA理事会の投票で南アを支持する見返りに賄賂が渡つていたとされた。カタール大会の汚職についても世界の様々なメディアが疑惑を報じている。